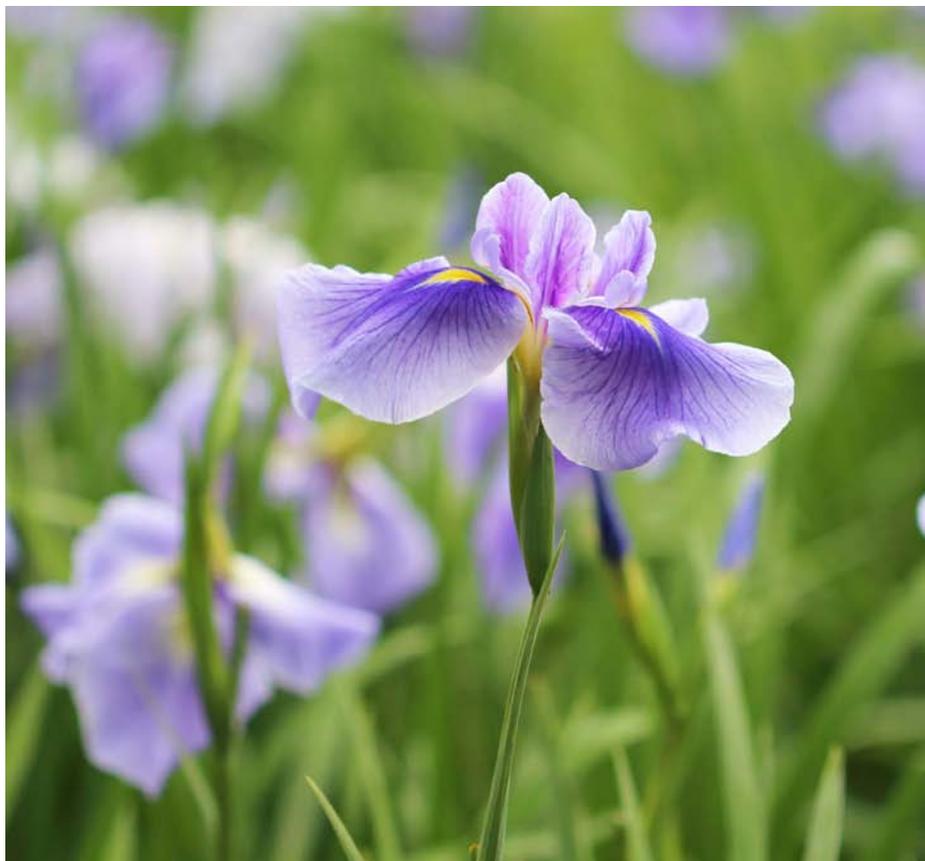


# 熊大病院ニュース

第25号

Kumamoto University Hospital

熊本大学医学部附属病院 広報誌



新任役職者紹介 ..... P1

**谷原秀信** 病院長  
**就任のご挨拶**

新任役職者紹介 ..... P2

**看護部**

イベント紹介 ..... P2

特集 ..... P3

**働くがん患者さんの  
就労支援**

知っ得! 納得! Q&A ..... P4

**受動喫煙・たばこの害**

診療科・部門紹介 ..... P5

**\*画像診断・治療科  
\*医療の質・安全管理部**

看護部だより ..... P6

**補助人工心臓チームによる  
「VAD(バド)外来」**

総合案内 ..... 裏表紙

**ご自由に  
お取りください**

**2018年 初夏号**

熊本大学医学部附属病院

**【理念】** 本院は、患者本位の医療の実践、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する。

**【基本方針】**

- ・患者の希望、期待、要求を尊重する医療の実践
- ・安全安心で質の高い医療サービスの提供
- ・優れた医療人の育成
- ・先進医療の開発と推進

**【患者の権利】**

- ・良質な医療を受ける権利
- ・十分な説明と情報提供を受ける権利
- ・自分の意思で医療を選ぶ権利
- ・プライバシーや個人情報が保護される権利

**【患者の責務】**

- ・自分の健康状態について正確に伝える
- ・本院の規則を遵守する
- ・迷惑行為を行わない



**病院敷地内全面禁煙のお知らせ**

皆様のご理解とご協力をお願いします。

熊本大学医学部附属病院の建物内、敷地内(含む中庭、駐車場) および病院周辺の道路は全面禁煙です。喫煙を確認した場合は、来院者には退去勧告、入院患者さまには退院や転院を勧告いたします。禁煙へのご理解とご協力をお願いいたします。

**看護師募集中**

最先端の医療に携わってませんか?

育児休業復帰  
支援プログラム  
実施中です!

担当: 熊大病院 総務課 人事給与担当

☎ **096-373-5913**



病院職員と一致団結し、  
本院を国民の期待に応えることのできる  
大学病院として発展させることを目指します。

熊本大学医学部附属病院 病院長

谷原秀信



地域全体の医療福祉に貢献したいと考えております。

病院長に就任致しましたご挨拶をさせていただきます。私が熊本大学へ眼科教授として着任してから17年の歳月が経過致しましたが、以前にも病院長を務めておりますので、今回は二回目の病院長就任となります。眼科教授と併任した前回と異なり、今回は専任の病院長であることを選択致しました。今後、さらに複雑になってくる病院の管理運営を采配する上で、病院長の職責に専念することが望ましいと考えたからです。震災で疲弊し、まだ十分に復興・復旧しているとは言い難い熊本の地域医療の現状を踏まえ、県・市や各自治体、県医師会との連携を深め、地域全体の医療福祉に貢献したいと考えております。そのためにも専任病院長として時間をかけ、丁寧なコミュニケーションを取って、皆様のご意見を傾聴したいと思います。

### 「患者様の安全を第一とする高度な医療安全管理体制」

熊大病院の理念は、「本院は、患者様本位の医療の実践、医学の発展及び医療人の育成に努め、地域の福祉と健康に貢献する」というものです。患者様本位の医療で大前提となる基盤は、「患者様の安全を第一とする高度な医療安全管理体制」であることは当然です。本院の高度医療体制は、地域医療において、「最後の砦」としてきわめて重要な存在であると考えております。

我々が、安心・安全に「患者様本位の医療」を実践し続けるためには、患者様の心情を察し、医師、看護師、医療技師、事務が互いに協力し、助け合い、理念を共有することが大事だと考えております。本院は、長い歴史の中で、熊本県を中心として九州圏全体に対して、優れた医療を提供するとともに、全国、そして世界に向けて、優れた医療人を育て、新しい医学情報を発信してきました。



【写真】熊本大学医学部附属病院

私は、本院が診療、教育、研究のすべてにおいて、孤高の存在になることなく、オール熊本の地域連携を基盤とすることを理想としています。病院職員と一致団結し、本院を国民の期待に応えることのできる大学病院として発展させることを目指す所存です。今後とも、皆様から本院に対する温かいご協力とご支援をお願い致します。



看護部 部長

山本 治美

この度、4月1日付で看護部長に就任いたしました。

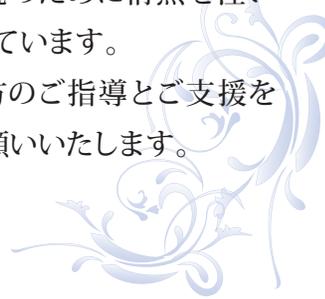
社会情勢の変化に伴い、医療を取り巻く環境も大きく変化してきており、県内唯一の特定機能病院として本院の果たすべき役割は今まで以上に大きなものになってきております。情勢厳しい折、看護部組織の運営責任者である看護部長の責任の重さをひしひしと感じています。

地域包括ケアシステムの推進に伴い、多くの患者様が医療依存度の高い状態で自宅へと帰って行く時代となっており、看護師の専門職としての自律と専門職種間の協働を図ることは非常に重要であると感じています。

看護師が専門性を高め安全性を担保しつつ役割を担っていくためには、十分な教育を施すと同時に、看護職員の定着が必須です。組織で働く者それぞれが互いを思いやり、新人看護師から看護師長に至るまで、元気でモチベーション高く働くことができるよう看護職員としっかり向き合い、看護職員の声に耳を傾け発展的変革に向けて尽力していきます。

学生実習の時から熊大病院一筋、これからも熊大病院のために情熱を注いでいきたいと思っています。

今後とも皆様方のご指導とご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



## 🍀 イベント紹介

一般財団法人 恵和会の助成により開催されている院内のイベント等をご紹介します。



### 春を彩る 雛人形を展示

2018年2月1日(木)から3月31日(土)まで、外来入口と中央診療棟1階エントランスホールに、雛人形を展示しました。艶やかな雛人形が、院内に一足早い春の訪れを感じさせていました。

### 五月人形を展示

2018年4月2日(月)から五月人形の展示が、外来入口と中央診療棟1階エントランスホールで始まりました。この展示は患者様やご来院の皆様の癒やしのために始められたものです。5月31日(木)まで展示しておりますので是非ご覧ください。



# 働くがん患者さんの就労支援

## ～ハローワーク出張相談について～

【監修】熊本大学医学部附属病院 がん相談支援センター 岩瀬弘敬 前センター長／がん専門相談員 境佳子

がんは、生涯において2人に1人がかかる疾患です。

がんは、日本では生涯において2人に1人がかかる疾患です。また、がん患者の約3人に1人は就労可能年齢(20-64歳)で罹患しています。

近年の健診などによる早期診断や治療技術の向上に伴い、5年相対生存率は上昇しており、治療と仕事の両立が課題となっています。

そのような背景のもと、国はがん対策基本法に基づく第3期がん対策基本計画で、がん患者の就労支援について重点的に取り組みを進めることとなりました。熊本県でも、がん相談支援センターとハローワークや社会労務士との連携による就労支援が行われています。

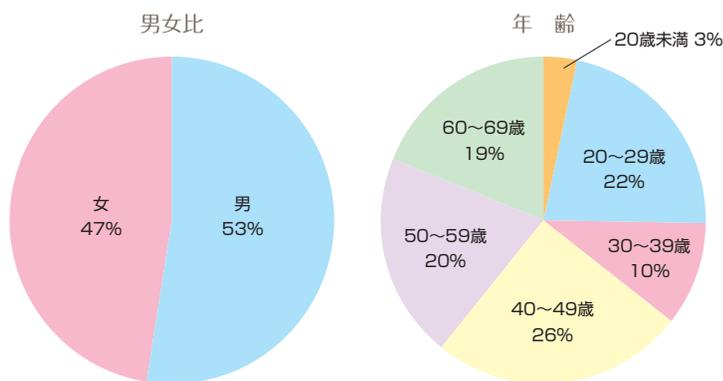


【写真】就労相談の様子

現在、熊本大学医学部附属病院で月2回ハローワーク熊本の就労支援ナビゲーターによる長期療養者就労相談を行っています。2016年12月からの開始以降、54件の相談があり、うち19件が就労につながっています(図1)。(2018年1月31日現在)

就労でお困りの方がおられましたら、がん相談支援センターへご相談ください。

図1 2016年12月～2018年1月就労支援相談者内訳



### 主な相談内容

- ・治療が一段落したので、仕事を探したい。
- ・体力に自信がないので、以前と同じような仕事ができない。
- ・治療や生活にお金がかかるので治療しながら働きたい。
- ・職場復帰に向け不安がある。
- ・就職活動で、企業に病気のことを伝えるべき？
- ・就職したのに、再発の疑いが。どうしたらいい？
- ・家にじっとしては気が滅入る。社会と繋がってみたい。

～長期療養者就労相談を行っています～  
ハローワーク熊本による就労相談です

場所: 熊本大学医学部附属病院

日時: 第2・4水曜日

11:00～16:00(原則予約制)

※その他の医療機関の方からのご相談にも別途対応します。



ハローワーク熊本職業相談第一部門就職支援ナビゲーター

お問い合わせ ☎096-371-8262

熊本大学医学部附属病院 がん相談支援センター

お問い合わせ ☎096-373-5676

受付時間/月～金 8:30～17:15 (祝祭日を除く)



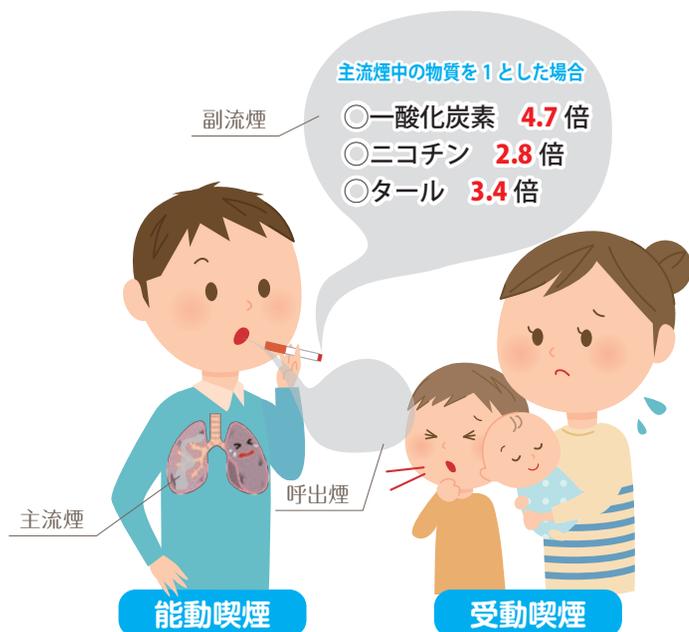
## 「受動喫煙・たばこの害」

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて様々な取り組みがなされており、その一つとして受動喫煙対策の強化を目的とした健康増進法の改正が検討されています。日本国内での喫煙率や受動喫煙の機会のある人の割合は緩やかに減少していますが、いまだに家庭や飲食店、職場などで多くの非喫煙者が受動喫煙の被害にあっています。

### Q 受動喫煙とは?

A

たばこの煙は、喫煙者がたばこから直接吸い込む「主流煙」、火のついたたばこから立ち昇る「副流煙」、喫煙者が吐き出す「呼出煙」の3つに分けられます。受動喫煙とは、自分の意思にかかわらず、副流煙や呼出煙を吸わされてしまうことを言います。さらに、たばこの煙成分が衣類やカーペット、ソファ、部屋の壁、髪の毛などに付着し、その残留物が揮発し有害物質を吸入してしまう受動喫煙を「サードハンドスモーク(三次喫煙)」と言い、これも健康に様々な悪影響を及ぼすことが指摘されています。



たばこの有害物質は**副流煙**により多く含まれています。

- 一酸化炭素…酸素不足を引き起こします。
- ニコチン…依存性があり、心臓にも負担をかけます。
- タール…多くの発がん物質を含んでいます。

### たばこや受動喫煙は健康に

### Q どのような影響がありますか?

A

たばこによる喫煙者本人への影響として、がん、脳卒中、心筋梗塞、慢性閉塞性肺疾患などの病気にかかる危険性が高くなります。受動喫煙も同様の健康問題を引き起こし、また、妊婦や赤ちゃんに対する悪影響も大きな問題となっています。日本国内で受動喫煙による肺がん、脳卒中、心筋梗塞などで死亡する人は年間約1万5千人と推計されています。また、赤ちゃんに対する深刻な健康被害として乳幼児突然死症候群があり、両親が喫煙者の場合その発症率は4.7倍になり、受動喫煙が重要な危険因子と考えられています。

### Q どのような予防法がありますか?

A

職場の屋内喫煙室や、家庭内で換気扇の下やベランダなどを喫煙場所とする「分煙」では、たばこの煙が室内に流入するのを完全に防ぐことはできません。また、屋外で喫煙しても衣類などに付着した有害物質によって三次喫煙が起こります。そのため、受動喫煙の予防には喫煙者が禁煙を実行することが重要です。多くの医療機関では禁煙外来を設けており、禁煙を成功させるためのサポートを行っています。他にも、建物内や敷地内の全面禁煙の推進など、たばこの煙を吸わないで生活できる環境作りが今後の重要な課題です。

各診療科・部門についてご紹介いたします。

## 画像診断・治療科



▲山下康行教授

我々、画像診断・治療科は以下の4つのグループが有機的に繋がって全身の診断および治療に携わる診療分野です(①CTやMRIを中心とする形態画像診断、②SPECTやPETによる核医学診断および甲状腺や悪性リンパ腫に対する核医学治療、③インターベンショナル・ラジオロジー

(IVR)による非侵襲的診断と治療、④消化管診断と治療)。

画像診断モダリティや治療のデバイス・技術は日進月歩の発展を見せています。本院においても320列マルチスライスCT、デュアルエネルギーCT、3テスラMRI、デジタルPETといった最新の診断機器を活用し、画像診断の適応拡大と迅速で正確な診断につとめています。また、腫瘍に対する血管造影による塞栓化学療法、経皮的な焼灼治療や緊急IVR治療に加えて、近年は腎細胞癌に対する凍結療法にも取り組んでいます。

当科では若手からベテランまでの医師が協力して、各診療科、メディカルスタッフとともに患者様、地域医療に貢献していきます。

## 医療の質・安全管理部



中山秀樹部長(後方左から3番目)

県下唯一の特定機能病院である本院は高度で先進的な医療を提供する使命を担う一方、患者様の安全を第一に考えなければなりません。私たち医療の質・安全管理部では、エラーを未然に防いで医療事故を防止するためのシステム作り日々取り組んでいます。

主な業務として、医療事故等の情報を収集し原因を分析して再発防止につなげる活動があげられます。重大な医療事故が発生した際には、病院として適切な対応が速やかにとれるよう事実確認を直ちに行います。また、普段から院内巡回を頻回に行い、医療安全の教育・啓発活動を行っています。

医療の質・安全管理部の医療スタッフは、副病院長兼部長1名、医師ゼネラルリスクマネージャー(GRM)2名、看護師GRM3名、薬剤師GRM1名、臨床心理士1名です。これらの専門性の高いスタッフと医事課の事務職員とが互いに協力し、良好なチームワークのもとで様々な業務にあたっています。



## 補助人工心臓(ventricular assist device:VAD)チームによる「VAD(バド)外来」

### 心不全とはどんな病気でしょうか？

心不全とは、何らかの原因で心臓のポンプ機能が悪くなり、体の主要な臓器や隅々まで必要な酸素を運べるだけの血液を排出できない状態を言います。

日本の慢性心不全患者は2035年には130万人まで増加し、「心不全パンデミック時代」が到来すると予測されています。

心不全の治療は、薬物治療やカテーテル治療などの内科的治療をはじめ、心臓の血管や弁の異常によって冠動脈バイパス術、僧帽弁形成術、左室形成術などの外科的治療も積極的に行われています。しかし、最大限の治療にも関わらず心不全がよくなることはありません。そのような患者様に対し、2013年には心臓移植を前提とした左室補助人工心臓(LVAD)植込み術が保険適応となりました。

### 左室補助人工心臓(LVAD:エルバド)とはどんなものなのでしょうか？

LVADとは、心臓の左室から全身に必要な血液を送り出す働きをして、心臓の代わりにしてくれます。

心臓移植のドナー提供数は少ないことから、欧米ではすでに永久使用を目的とした人工心臓も普及しています。日本でも高齢者のLVAD適応に向け、永久使用目的の治験が2016年から開始されました。

本院においても、補助人工心臓\*を装着した熊本県在住の患者を外来で受け入れ管理できるように準備を進め、2017年11月1日に植込型補助人工心臓管理施設として認定を受けました。

\*補助人工心臓とは、心不全に陥ってしまった心臓の代わりに、血液循環のためのポンプ機能を補う治療用装置です。



【写真】 植込型補助人工心臓管理施設認定証

循環器内科・心臓血管外科医師、看護師、専門・認定看護師、臨床工学士がチームで外来管理体制を整え、本格運用を開始しております(図1)。

補助人工心臓を装着した患者様が、住み慣れた熊本県でその人らしい生活を送ることができるよう、県内唯一の特定機能病院としてチームで支援できるよう、連携し努力して参ります。

図1 VADチーム



